

## 今治市沿岸で確認されたキクメイシモドキ

小林 真吾\*

Record of the Hermatypic Coral, *Oulastrea crispata* at the Shore in Imabari City

KOBAYASHI Shingo

**Abstract** : A hermatypic coral, *Oulastrea crispata* was found in the shore region of Imabari city, on the mid-western area of Seto Inland Sea. *O. crispata* was found in rock shore of Kamoike beach, and clinging to granite base rock of lower intertidal zone. Colonies of *O. crispata* were relatively small, usually less than 10cm in diameter.

**キーワード** : キクメイシモドキ, 造礁サンゴ, 瀬戸内海, 今治市

**Key words** : *Oulastrea crispata*, Hermatypic coral, Seto Inland Sea, Imabari city

### 1 はじめに

キクメイシモドキ *Oulastrea crispata* は造礁サンゴの一種で、日本沿岸域に分布する造礁サンゴの中でも最も北に分布する。また沈殿物等による濁りに対する耐性も強いことから、ほかの造礁サンゴが生育しないような内湾や干潟にも生息することが知られている（西平・Verón, 1995）。

日本沿岸における本種の分布は、太平洋岸では千葉県南部、日本海沿岸では能登半島と佐渡島で確認されているが、瀬戸内海における本種の分布についての記録は少ない。岡山県や広島県沿岸では比較的最近の観察記録があり、中でも広島県大崎上島の沿岸域では、本種の探索を目的とした潜水調査が行われている（清水ほか, 2007）。この調査の結果では、本種は大崎上島周辺の海域で広く分布している可能性が示唆されている。

愛媛県の沿岸海域のうち、黒潮の影響で南方系要素の強い宇和海海域では多くのサンゴが群生しており、海域の一部が足摺宇和海国立公園に指定されている。同公園海域における近年の詳細な調査によれば、他の造礁サンゴとともにキクメイシモドキも確認されている（環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所, 2005）。一方、愛媛県の瀬戸内海沿岸ではサンゴ類の生育確認に関する記録自体が極端に少なく、非造礁性のオノミチキサンゴについては観察の記録が見られるものの、キクメイシモドキの生育記録については、文献等で確認できる確実な情報がほとんど存在しない。

筆者は、2015年から2016年にかけて今治市西部の鴨池海岸においてキクメイシモドキの生育を確認したので、ここに報告する。

### 2 鴨池海岸の環境

愛媛県今治市の鴨池海岸は、市域の西部、旧大西町九王地区に位置する小規模な海岸である。（図1）高縄半島北端に近い梶取ノ鼻から旧大西町、その西隣の旧菊間町にかけて連なる弧状の地形の最奥部に位置し、内湾的要素が強い。特に海岸の北側は、小規模ながら磯が張りだした形状となっているため潮通しは悪く、透明度は低い。一方で波が穏やかであることから周辺には造船所が立地するほか、ボート競技の練習にも利用されたことがある。

鴨池海岸は、砂浜と磯浜が連続し、最大干潮時には前浜干潟が干出する。また海岸背後の森林と海岸の間に人工構造物がなく、良好な環境の残る海岸の一つである。砂浜、磯、干潟の生物が一度に観察できる数少ない場所であることから、周辺の他の海岸と比べて海岸生物の観察会が比較的多く開催されている。当館では海辺の生物を観察する自然観察会を定期的実施しており、過去5年間にわたり鴨池海岸で観察会を実施している。さらに筆者は外部からの依頼による自然観察会でも同海岸を利用しており、観察頻度は他の海岸に比較しても多い場所といえる。

\* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究グループ  
Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum

### 3 キクメイシモドキの生育状況

キクメイシモドキは、2015年6月7日に海岸北部の磯の潮間帯下部において、自然観察会の予備調査中に確認された(図2)。確認当日の潮は中潮で、最大干潮の潮位は今治港で56cmであった。キクメイシモドキは最大干潮時近くで干出する岩盤上に生育しており、長径10cm程度の群体3個体が確認された。

さらに2016年7月3日に、同じ鴨池海岸で海辺の生物の観察会を実施し、最大干潮時近くで干出する岩盤上において長径10cm程度のキクメイシモドキの群体5個体を観察した。この日の潮位は中潮で、最大干潮の潮位は今治港で42cmであった。

一般的に、キクメイシモドキの群体サイズは、多くが10cmに満たないとされており、今回確認された群体は、同種の最大サイズに近いものと考えられる(西平・Verón, 1995)。キクメイシモドキの成長速度について確実な情報は得られていないが、塊状の造礁サンゴの1種は1cm/年程度のものであり、本種も少なくとも過去数年間のあいだに成長して現在に至っているものと考えられる。なお、大崎上島では転石上などで容易に確認されるが、現在までのところ鴨池海岸では転石上での生育は確認されていない。

### 4 愛媛県におけるキクメイシモドキの分布に関する考察

愛媛県の沿岸海域では、かつて南予地方でサンゴ類の調査が多く行われ、発表されてきた(例えば伊藤, 1972など)。これらは足摺宇和海国立公園指定の際に実施された調査の報告や、それらの総括として構成されたものであるが、こうした報告の中にはキクメイシモドキは見当たらない。おそらく時代的な背景もあり、国立公園や観光資源としての造礁サンゴ類が注目されてきたため、内湾域に生息する本種は認識されてこなかったと考えられる。

愛媛県内では、愛媛県立博物館が中心となって運営していた愛媛自然科学教室によって過去50年以上にわたり県内各地の海岸で海岸生物の観察会が実施されている。瀬戸内海沿岸では、松山教室による観察会が梅津寺、白石鼻、中島周辺で、今治教室による観察会が今治市小島、吉海町大島・津島などで実施されているが、これらの観察会の記録にはキクメイシモドキは現れない。

当館には旧愛媛県立博物館から移管された様々な動物標本が収蔵されており、その中には愛媛県沿岸で採集されたサンゴの骨格標本が含まれている。サンゴ骨格標本の多くは県立博物館が発足した昭和34年に、土佐清水市在住の黒原和男氏を通じて入手したもので、産地は渭南海岸(愛媛県と高知県の県境付近)のものを中心に琉

球列島、奄美群島、大隅半島など南方海域から調達されている。これらの標本に関しては、写真を多用した図譜形式の目録が刊行されている(八木, 1970)が、この中にはキクメイシモドキは写真・生息記録ともに収載されていない。

一方、県立博物館から移管されたサンゴ骨格標本は、前述の黒原氏によるコレクション以外にも少数が存在し、その中に県内産のキクメイシモドキの標本が1点収蔵されている(図3)。この標本は、松山沖の中島で採集されたもので、島の南東部に位置する大串海岸の久兵衛小島という陸繋島で採集されたものである。サンゴの群体は長径11cm×高さ7cmの花崗岩礫の、表面の50%以上を覆うように付着しており、キクメイシモドキの群体のサイズとしては大きく生長したものと考えられる。残念ながら、採集年月日および採集者のデータが存在しないため、詳細は不明である。

愛媛県では、2003年と2014年にレッドデータブック(以下RDB)を刊行しており、この中で海産動物という生物群が取り上げられているのが一つの特徴となっている。このRDB編纂の成果の一部として、県内で確認されている生物種の目録が愛媛県のホームページ上でも公表されている(愛媛県HP)。この目録の海産動物では、キクメイシモドキの属する刺胞動物門花虫綱として13種が記載されているが、いわゆるサンゴ類としてはキサソゴ科の1種、*Dendrophylliidae* sp.が記載されているだけで、キクメイシモドキの記述は見られない。

文献に基づかない近年の記録としては、松山市付近の海岸で海洋生物の観察・採集を行っている際に偶発的に観察された例がある(柴田健介氏私信)が、群体数や生息範囲などの詳細な記録は得られていない。

以上のように、愛媛県沿岸におけるキクメイシモドキの生育・分布については、文献上でも観察記録でも、確認できる情報が極めて少ない。これらの他にも観察例はあるものと推測できるが、生息範囲が最低潮位でも干出しないこと、さらに群体が黒色を基調とした色調で視認性が悪く、これまで観察者に認識されていなかった可能性が高いと考えられる。また、面的に固着するため採集が困難であることから標本として残しにくく、認識が遅れた要因の一つと考えられる。

### 5 おわりに

瀬戸内海に生育するサンゴとしてはオノミチキサソゴが知られており、広島県および島根県において準絶滅危惧種に指定されている。一方、キクメイシモドキは北限に近い石川県において準絶滅危惧種に指定されているのみで、瀬戸内海沿岸では保全対象とはなっていない。本種の愛媛県沿岸での生育記録は断片的であり、現状では

絶滅危惧種と捉えるべきかどうか不明であるが、良好な環境を維持した内湾的環境の指標生物としての可能性が考えられる。

愛媛県の沿岸域における海岸生物の記録は、観察の容易な潮間帯の情報が多いものの、潮下帯以深の生物に関する情報収集やインベントリ作業が遅れている。本種についても県内各地の海岸を網羅的に観察し、分布や生態に関する知見をさらに収集し、保全の必要性について検討する必要がある。こうした網羅的な調査を行うことで、多様な海洋生物の情報が得られれば、絶滅危惧種の情報集積だけでなく、それらの情報を活用した地域ごとの海洋教育プログラムなどを展開することも可能と考えられる。



図1 キクメイシモドキの生育が確認された鴨池海岸

### 謝 辞

本稿をまとめるにあたり、松山市周辺でのキクメイシモドキの観察情報を提供していただいた柴田健介氏に深く感謝申し上げます。

### 文 献

愛媛県：「愛媛県産野生動植物目録・海産動物」。愛媛県県民環境部自然保護課生物多様性係編。 [http://www.pref.ehime.jp/h15800/1184034\\_1934.html](http://www.pref.ehime.jp/h15800/1184034_1934.html)（参照 2016-10-12）。

伊藤猛夫(1972)：宇和海海中公園とその周辺海域の動物，『愛媛の生物』，愛媛県高等学校教育研究会理科教育研究会編，125-134p。

環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所（2005）：平成16年度竜串地区自然再生推進計画調査（海域調査）報告書，環境省，215pp。

西平守孝・J.E.N.Verón（1995）：「日本の造礁サンゴ」海游舎，439pp。

清水則雄・越智雄一郎・東出遼介・門田立・鳥越兼治・橋本博明・坂井陽一（2007）：瀬戸内海大崎上島沿岸域より採集された造礁サンゴの1種キクメイシモドキ *Oulastrea crispata*（キクメイシ科 Faviidae），広島大学大学院生物圏科学研究科紀要，vol46，p.1-4。

八木繁一（1970）：「愛媛県立博物館所蔵いしさんご類図譜・愛媛の自然特集号」，愛媛自然科学教室，61pp。



図2 鴨池海岸で確認された個体



図3 愛媛県立博物館から移管された中島産のキクメイシモドキ

